令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】

上尾市立富士見小学校

上尾市立富士見小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

未来を切り拓く　心豊かな児童の育成
かしこく　やさしく　元気よく

学校課題研究主題

「心豊かで努力し、他人の良さも認められる児童」

－　　－

学力・学習状況調査の結果

R8 全国学力・学習状況調査

・国語は、全問題で全国平均以上。文章構成を理解した記述ができ、基礎学力が定着している。
・課題は記述問題や漢字での無回答率が高い。複数資料の読み取りに難しさがある。
・要因は書く目的の意識付けや、普段から漢字を使って文章を書く習慣が不足している。
・算数は、知識・技能の全国平均はすべてクリア。
・課題:は実生活と結びつけて考える力や、通分の概念理解が不十分。説明（記述）に弱い傾向にある。
・要因:は、機械的な処理）になりがちで、考えを言葉や式で表現する学習が不足している。

R8 埼玉県学力・学習状況調査

・「作業方略」の数値が低く、基礎定着や記述力に課題が出ている。
・国語は漢字を正しく選択する力（４年）、修飾語・副詞などの言葉の理解（５年）、自分の考えを目的･文章にまとめて書く記述力が課題である。
・算数は 図形（球・三角形等）、くり上がり小数・計算順序などの基礎計算、解答根拠を言葉で説明する記述力が課題である。

R7 上尾市立小・中学校学力調査

・国語、算数共に、全学年で校内平均正答率が市町村平均や目標値を上回っている。
・正答率は観点**「知識・技能」が特に高く、国語の漢字の読み書きや、算数の計算の基礎、グラフの読み取りなどは全学年を通して良好である。
・領域では、国語は「漢字」や「内容の概略の把握」、算数は「数と計算」「データの活用」が高い。一方で、算数で「立式の根拠や考え方を言葉や図で説明すること」、国語で「敬語や接続語などの言語事項」が目標値を下回る学年が多い。
・習得した知識を活用し、「なぜそうなるのか」という根拠を論理的に説明・表現する力の育成が課題である。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得

・児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容
・体験や交流から得られる新しい見方や考え方

思考力・判断力・表現力等の育成

・根拠を、言葉、図、式、表などを用いて多角的に表現する力
・課題解決のために必要な既習事項を適切に選択し、予測・試行・工夫しながら新たな気付きを生み出す力
・目的や相手に応じて、自分の考えを文章や対話で適切に構築する力

学びに向かう力・人間性等の涵養

・自らの学習状況を把握し、目標達成に向けて主体的に学習を調整しようとする態度
・友達や教師などの周囲と関わり合い、多様な考えを認め合いながら、互いに高め合おうとする姿勢
・体験や交流を通じて新しい見方や考え方を取り入れ、実社会や実生活に生かそうとする意欲

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得

・家庭学習等において、計画的に繰り返し取り組ませ、定着を確実にする。
・生活科や総合的な学習の時間、また教科等における体験活動やICTを活用した協働学習を意図的に設定し、他者の多様な考えに触れさせることで、単なる知識の習得に終わらない「新しい見方や考え方」を広げる場を創出する。

思考力・判断力・表現力等の育成

・単に答えを出すだけでなく、言葉、図、式、表などを用いて「なぜそうなるのか」を多角的に説明し合う活動を全教科で充実させる。
・全体として「作業方略」に課題が見られる点を改善するため、課題解決の過程で既習事項をどう選択・活用するかを見通す場面を意図的に設定し、児童が自ら予測・試行・工夫を繰り返しながら新たな気付きを生み出せるよう支援する。
・国語の「書くこと」における課題解決に向け、伝える相手や目的を明確にした言語活動を位置付けるとともに、学びを個々で完結させず、成果を他者に表現することを学習のゴールに設定して、文章や対話で考えを適切に構築させる。

学びに向かう力・人間性等の涵養

・児童一人一人が学習の見通しをもち、自らの学習状況を振り返る場面を毎時間位置付けることで、目標達成に向けて主体的に学習を調整しようとする態度を育み、６年生で見られたような大きな学力の「伸び」を全学年で継続させる。
・ICT機器を効果的に活用した協働活動や学び合いの場を意図的に設け、自分とは異なる多様な考えを認め合い、互いの良さを取りいれられるようにする。
・生活科や総合的な学習の時間における体験活動や交流から得た新しい見方・考え方を、他者に表現したり実社会の課題解決に生かしたりする場面を設定する。

本校の特色ある取組

・教科専科制による学習指導（５・６学年、７教科）、学年内交換授業（１～４年、学活・道徳）
・読書タイム、宝箱タイム、あいさつ運動、多様な学びの推進等

家庭教育との連携

・学校メール配信システム（さくら連絡網）を活用したオンラインでの手紙配布やアンケートの実施、出欠席の連絡、学校応援団の募集や日程調整
・学校ホームページを活用した情報発信

1　学力調査結果の概要

（1）上尾市立小・中学校学力調査（令和7年12月実施）

2年（令和8年度3年生）【国語】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		≒	〇基礎は5ポイント、知識・技能は6ポイント上回っていて、基本的な学力は定着している。 ●記述する問題で目標値を下回っていて、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	≒	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	≒	指定された長さや条件で書く活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・経験したことなどをから書くことを見つけ、指定された長さで文章を書くようにさせる。 ・話す聞くの活動で、話し手の内容を受けて聞き手は質問を考えるようにさせる。		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	ゲームの説明を聞く	情報と情報との関係について理解し、相手の発言を受けて質問している。	話し手が伝えたいことは何かを考えながら聞き、その内容を受けて質問をする活動を繰り返し行わせる。
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	決められた条件に従って書く活動を繰り返し行わせる。

2年（令和8年度3年生）【算数】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇活用は8.2ポイント、思考・判断・表現は7.3ポイント上回っていて、学力は定着している。 ●記述の解答形式で目標値を下回っていて、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	既習の学習を長期に定着させるための反復練習が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
算数科の重点目標	・ICTを活用して視覚的に量感を養うとともに、既習の学習内容を繰り返し行い習熟させる。 ・四則計算については正確に速く計算できるように反復練習させる。		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	1000までの数	命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	記数法で表してある数を読み、命数法で書き表す等の活動を行う。
②	長さ・かさ	単位が異なる3つのかさの大小を、単位を揃えて比較している。	長さやかさの単位換算をする問題に繰り返し取り組ませる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

3年（令和8年度4年生）【国語】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇活用は7.8ポイント、思考・判断・表現は7ポイント上回っていて、概ね基本的な学力は定着している。 ●基礎は、目標値を5.4ポイント上回っているが、問題によっては課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	決められた長さや条件で書く活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・語と語の続き方に注意しながら、語彙を増やすような短文作りをさせる。 ・自分の意見をきめて、指定された長さで文章を書くようにさせる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	言葉の学習	様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	教科書巻末にある「言葉のたから箱」にある語句を使った短文作りを繰り返し行わせる。
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	決められた長さに従って書く活動を繰り返し行わせる。

3年（令和8年度4年生）【算数】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇基礎は、8.3ポイント、知識・技能は7.9ポイント目標値を上回っていて、概ね学力は定着している。 ●活用も4.7ポイント上回っているが、問題によっては課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	≒	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	既習の四則計算を長期的に定着させる反復練習が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
算数科の重点目標	・既習の習熟にかける時間を授業の中で確保し、練習問題に取り組ませる。 ・授業の中で、思考する時間を十分に確保し、言語などで表現できるような場面を取り入れる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	たし算・ひき算	3けた＋3けた＝3けた（繰り上がり2回）の計算ができる。	学力を維持・向上できるように、基本的な計算問題等に繰り返し取り組ませる。
②	わり算	余りのある除法の答えの確かめ方を説明している。	算数のTTを活用し、ペアやグループで考えを説明する場面を授業に取り入れる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

4年（令和8年度5年生）【国語】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇基礎は7.6ポイント、知識・技能は7.7ポイント目標値を上回っていて概ね基本的な学力は定着している。 ●話す聞くの領域で目標値を下回る内容があり、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	≒	理由や事例を入れ、聞き手に分かりやすい文章構成を考えて発表する活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・主語や述語、文と文のつながりに着目させ、分かりやすい文章を考えさせる。 ・調べたことを発表する際に、理由や事例を入れて聞き手に分かりやすい段落構成を考えさせる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	調べて分かったことを発表する。	情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。	資料の内容を理解し、理由や事例を入れながら構成を考えて発表する活動を行わせる。
②	言葉の学習	主語と述語の関係について理解している。	文を書くとき、読むときに、動作の主体となるものは何かを考えさせる。また、「は」「が」の助詞に注目させる。

4年（令和8年度5年生）【算数】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		≒	〇活用は6.3ポイント、思考・判断・表現は8.6ポイント目標値を上回っていて、概ね学力は定着している。 ●図形や計算のきまりの問題で目標値を下回るものがあり課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	既習の学習を長期に定着させる反復学習が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
算数科の重点目標	・授業の中で、思考判断する時間を十分に確保し、言語などで表現できるような場面を取り入れる。 ・図形の問題に関しては、道具の操作や作図などを繰り返し取り組ませる。数学的活動を取り入れた指導を行う。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	角の大きさ	分度器の中に示された角の大きさを読みとることができる。	分度器の使い方を習熟し、実感として鋭角や鈍角をとらえて書いたり読みとったりできるように問題に取り組ませる。
②	垂直・平行と四角形	平行四辺形の性質をもとに、できた四角形が平行四辺形であることを説明している。	知識を活用して説明するような問題に取り組ませる。また、ICTを活用しながらどの層の児童も自分なりの考えをもつようにさせる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

5年（令和8年度6年生）【国語】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇活用は13.8ポイント、思考・判断・表現は11.2ポイント目標値を上回っており、概ね学力は定着している。 ●基礎は、目標値を8.6ポイント上回っているが、問題によっては課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	決められた長さや段落構成で書く活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
国語科の重点目標	・既習の漢字の反復練習するとともに文章の中で送り仮名を意識しながら漢字を書くようにさせる、。 ・資料を読みとり、自分の考えを決めて、段落を順序立てて整理し、指定された長さで文章を書くようにさせる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	漢字を書く	第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	ドリルを活用した反復練習や文章の中で漢字や熟語を活用することを繰り返し行わせる。
②	文章を書く	自分の意見を明確にして書いている。	資料を読みとり、決められた条件に従って自分の意見を文章に書く活動を繰り返し行わせる。

5年（令和8年度6年生）【算数】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇活用は7.3ポイント、思考・判断・表現は8.8ポイント目標値を上回っており、概ね学力は定着している。 ●体積を求める問題が目標値を下回っていて、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	言葉から図形や文章の状況を思いうかべるような問題の取り組みや習熟が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
算数科の重点目標	・ICTを活用して習熟度に合わせた問題に取り組ませるとともに、四則計算の反復学習を行って正確に速く計算できるように練習させる。 ・ペア学習やグループ学習を効果的に行い、どの層の児童も自分なりの考えを説明させるようにする。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	体積	立方体の体積を求める式を理解している。	立方体・体積といった言葉から形をイメージできるように授業の中で体積の問題を繰り返し行わせる。
②	小数のかけ算・わり算	篤さ5.4cmの辞書を、幅90cmの本棚に何冊並べることができるかを説明している。	計算としての小数のかけ算・わり算は目標値を上回っているので、小数の文章問題に繰り返し取り組ませる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

6年（令和8年度中学1年生）【国語】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇活用は10.4ポイント、思考・判断・表現は7.2ポイント目標値を上回っており、概ね学力は定着している。 ●我が国の言語文化に関する事項は、目標値を21ポイント下回っており、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	短作文を書くことや、指定された長さで文章を書く活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・自分の主張だけでなく、相手の考えもよく聞き、意見や立場の違いについて考えながら話をするようにさせる。 ・自分の考えを決めて、賛成意見や予想される反論とそれに対する自分の意見を書くなど、文章構成を順序立てて整理し、指定された長さで文章を書くようにさせる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	言葉の学習	語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。	新出漢字を学習する際に、音読み、訓読みについての確認を繰り返し行わせる。
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	1行日記や短作文を書くことで、決められた条件に従って文章を書く活動を繰り返し行わせる。

6年（令和8年度中学1年生）【算数】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		≒	〇活用は9.4ポイント目標値を上回っており、概ね基礎的な学力は定着している。 ●基礎は2.6ポイント目標値を上回っているが課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	比較量・基準量の習熟と、分数のかけ算わり算の既習の習熟が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
算数科の重点目標	・ICTを活用して習熟度に合わせた問題に取り組ませるとともに、四則計算の反復学習を行い、正確に速く計算できるように取り組ませる。 ・ペア学習やグループ学習を効果的に行い、どの層の児童も自分なりの考えをもつようにさせる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	比と比の値	等しい比について理解している。	既習の習熟にかける時間を授業の中で確保し、練習問題に取り組ませる。
②	分数のかけ算・わり算	比較量・基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。	一斉指導のほかに、TTを活用したり、ICT端末を活用したりして、理解度に合わせた個別最適な学習を進める。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

6年（令和8年度中学1年生）【国語】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		△	〇活用は10.4ポイント、思考・判断・表現は7.2ポイント目標値を上回っており、概ね学力は定着している。 ●我が国の言語文化に関する事項は、目標値を21ポイント下回っており、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	短作文を書くことや、指定された長さで文章を書く活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・自分の主張だけでなく、相手の考えもよく聞き、意見や立場の違いについて考えながら話をするようにさせる。 ・自分の考えを決めて、賛成意見や予想される反論とそれに対する自分の意見を書くなど、文章構成を順序立てて整理し、指定された長さで文章を書くようにさせる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	言葉の学習	語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。	新出漢字を学習する際に、音読み、訓読みについての確認を繰り返し行わせる。
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	1行日記や短作文を書くことで、決められた条件に従って文章を書く活動を繰り返し行わせる。

6年（令和8年度中学1年生）【算数】

項目		評価	考察（〇成果　●課題）
教科全体		≒	〇活用は9.4ポイント目標値を上回っており、概ね基礎的な学力は定着している。 ●基礎は2.6ポイント目標値を上回っているが課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	比較量・基準量の習熟と、分数のかけ算わり算の既習の習熟が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
算数科の重点目標	・ICTを活用して習熟度に合わせた問題に取り組ませるとともに、四則計算の反復学習を行い、正確に速く計算できるように取り組ませる。 ・ペア学習やグループ学習を効果的に行い、どの層の児童も自分なりの考えをもつようにさせる。		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	比と比の値	等しい比について理解している。	既習の習熟にかける時間を授業の中で確保し、練習問題に取り組ませる。
②	分数のかけ算・わり算	比較量・基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。	一斉指導のほかに、TTを活用したり、ICT端末を活用したりして、理解度に合わせた個別最適な学習を進める。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

（2）全国学力・学習状況調査（令和8年4月実施）

国語

考察（問題と結果の分析）

・文章の特徴を捉えて、文章全体の構成の効果を考えて書くことはできている。すべての問題で平均を上回っており、基礎的な学力は身に付いている。但し、無回答率も低いが、最後の問題（記述式）は9.4%と他の問題に比べ無回答率が高くなっている。
・複数の資料を読み取って問題を解くことに課題がある。
・漢字の問題の無回答率が高く、漢字への苦手意識が伺える。

課題の要因分析

・書く活動に慣れておらず、書く目的や意図が明確になっていない。詳しく書く必要のある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを児童自らが選択できるようになることが求められる。
・普段から漢字を使って文章を書く習慣がない児童がいる。小テストや漢字の宿題を大切に。
・低学年から身に付けてきた基礎学力が定着している。

算数

考察（問題と結果の分析）

・知識技能の平均点はすべて上回っている。算数の問題としてはできるが、実生活に結び付けて考えられる児童が少ない。
・分数の通分の意味が理解できていない児童が多い。そのため、分数の大きさは変えず、数値を考える必要がある問題ができない。

課題の要因分析

・分数の通分についての理解を深めることができていない。ただ問題を解くのではなく、生活と関連付けて考させることが必要。
・問題は解けるが、説明することができない。記述式が無回答にもつながっている。

（3）埼玉県学力・学習状況調査（令和8年5月実施）

国語

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R7レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
4年	校内	5−A			R7数値	3.7	3.7	3.4	4.0	4.0	3.8	4.3
	県	5−B			伸び +or−							

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

非認知能力が全体的に高いことが分かる。非認知能力と学力の相関が比較的高いことが分かる。その反面、主体的な学びの数値が平均を下回っている。学習方略としては、作業方略が苦手であるとみられる。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

書くことの活動を授業に積極的に取り入れていく。 文章に合った漢字を正しく選択する力が平均を下回っているので、既習の漢字を使って文章を書くことを習慣化していく。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R7レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
5年	校内	7−C	4	5−A	R7数値	3.8	3.8	3.5	4.0	4.1	3.7	4.1
	県	6−B	3	5−B	伸び +or−	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	−0.1	0.0

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

修飾語、副詞等の言葉についての問題の正答率が低い傾向にあることが分かる。また、学習方略としては作業方略の得点が低いため、言葉についての学習を地道に学習を積み重ねることが苦手であることが分かる。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

基本的にはどの項目も県平均よりも高かった。しかし、言葉に関する項目に苦手が見られたため、学校全体での朝学習の時間や国語の授業始めの数分を活用して修飾語等の学習を重ねていく。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R7レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
6年	校内	8−C	3	7−C	R7数値	3.8	3.7	3.4	4.0	4.0	3.6	4.2
	県	7−C	2	6−B	伸び +or−	0.3	0.1	−0.1	0.1	−0.1	−0.1	0.0

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

・学習課題に対して、知りたいことができたときに、自分なりに勉強方法を考え行うことができてきている。
・分からないことがあったときに、一つの方法にとらわれず、自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更することが身についてきている。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

・話合い活動を通し、自分の考えを上手に表現することができてきている。
・タブレット入力に頼りすぎず、ノートやワークシートに手書きで書く活動も大切にしていく必要がある。

（3）埼玉県学力・学習状況調査（令和8年5月実施）

算数

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R7レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
4年	校内	5−C			R7数値	3.7	3.7	3.4	4.0	4.0	3.8	4.3
	県	4−A			伸び +or−							

図形（球・三角形等）の定着が低い。計算など、作業的な内容が低い。解答の根拠を言葉で説明することの正答率が低い。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

既習事項を確実に定着させられるように、適宜、ふり返って確認することを意識して学習過程を組み立てる。思考したことを言葉で伝えたり、ノートに書いたりする活動を積み重ねる。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R7レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
5年	校内	5−A	2	5−C	R7数値	3.8	3.8	3.5	4.0	4.1	3.7	4.1
	県	5−B	2	4−A	伸び +or−	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	−0.1	0.0

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

くり上がりや小数、()を使った式などの計算に苦手が見られた。また、学力レベルの伸びが国語に比べて小さかった。学習方略の中でも作業方略に課題が見られ、既習事項をもとに順序立てて計算をすることを課題とすることにつながったと考えられる。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

単元導入時に既習事項の振り返りの時間を確保したり、計算の順序を個々に見直しをさせたりするなど、スモールステップを意識していく。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R7レベル	昨年度からの伸び(+or−)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
6年	校内	6−A	3	5−A	R7数値	3.8	3.7	3.4	4.0	4.0	3.6	4.2
	県	6−C	2	5−B	伸び +or−	0.3	0.1	−0.1	0.1	−0.1	−0.1	0.0

1　考察（「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析（学力レベルは県との比較も参考にする））

・学習課題に対して、知りたいことができたときに、自分なりに勉強方法を考え行うことができてきている。
・分からないことがあったときに、一つの方法にとらわれず、自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更することが身についてきている。

2　成果と今後の取組（1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする）

・課題が達成できたことを称賛していく。できなくても努力すれば達成できるということを経験させる。
・課題が終わった児童に対し、新たな課題ができるように準備をしておく。

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気付きを生み出しながら新たな気付きを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲（友達・教師等）と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①　③	①経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、語と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書く取組。 ③分かりやすく考えを表現する力を向上させるため、考えたことを一人一人が友達に伝える取組。	
算数	①　③	①既習の学習内容をくり返し習熟する取組。 （計算カード、フラッシュカード、計算ドリル練習等） ③自力解決や発表活動を取り入れ、思考力を高める取組。	
生活	②　③	②身近な人々や自分が住んでいる地域に関わる活動を通して、集団の中で安全で適切な行動について考えさせる取組。 ③動植物を飼ったり育てたりして、それらの育つ場所や変化、成長の様子に気付かせるとともに、生き物への親しみをもち大切にする心を養う取組。	
音楽	①　④	①どの単元においても歌唱を取り入れ、聴唱・階名模唱・階名暗唱、情景・気分、自分の歌声・発音に重点を置く取組。 ④鑑賞では、より具体的に想像が膨らむような曲やリズムの違いを味わう曲など、様々な音楽に親しみ自由に思いを膨らませ、味わって聴くようにする取組。	
図画工作	①　④	①形や色、方法、材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養うために導入の工夫をする取組（参考作品提示、ＩＣＴ活用、実物提示）。 ④友達の作品などから自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	
体育	①　④	①体つくり運動では、様々な用具や様々な動きを取り入れた運動を行い、楽しみながら体の基本的な動きを総合的に身に付ける取組。 ④ゲームの行い方を工夫したりルールを守ったりしてゲームを楽しんで行う取組。	
英語活動	①　②　④	①授業ごとに取り入れる活動を変えながら繰り返し学習表現を発話させる取組。 ②同じ歌を複数回扱い、英語が自然と出るように口慣らしをさせる取組。 ④単元の最後には、英語を用いて友達同士でコミュニケーションをとる時間を設定する取組。	
特別の教科　道徳	③　④	④自分との関わりの中で捉える時間を設定することで道徳的価値の自覚を促す取組。 ③ロールプレイや役割演技を活用し、自分の思いや考えに気付かせる取組。 ④道徳ノートを学習の記録として教育活動に活用し、自己の成長を実感する取組。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気付きを生み出しながら新たな気付きを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲（友達・教師等）と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①　②	①主語や述語、修飾語、文と文のつながりに着目させ、全体の脈絡を捉えるようにして文章を書く取組。 ②互いの意見の共通点や相違点に着目して考えを伝え合わせ、多様な見方や感じ方に気付かせる取組。	
社会	①　③	①資料の読み取り方を提示し、丁寧に指導する。読み取りができるようになったら、資料と資料を関連付けることで、思考力を養う取組。 ③授業の中で、思考判断する時間を十分に確保し、言語などで表現できるような場面を取り入れる取組。	
算数	②　③	③授業の中で、思考判断する時間を十分に確保し、言語などで表現できるような場面を取り入れる取組。 ②図形の問題に関しては、実感してとらえられるように、図形の操作や作図を活用して説明するなど、数学的活動を取り入れた指導を行う取組。	
理科	①　④	①観察等では、変化を他の事象との関わりでとらえられるように、多角的な見方やとらえ方の指導を行う取組。 ④実験で予想を立てるときに、根拠を明確にしてノートにまとめさせ、グループで話し合うようにさせる。それをもとに実験を行い、結果と分かったことを関連付けて考えさせるようにする取組。	
音楽	①　④	①リコーダーの技能の向上を目指すとともに、意欲的な表現ができるようにする取組。 ④発表会などの機会を捉え、表現することの喜び、合わせあうことの楽しさを味わわせる取組。	
図画工作	③　④	③経験を生かして、自分の表したいことが表せるよう、手や体全体を使う活動内容を授業の中に取り入れる取組。 ④身近な作品や自分たちの作品を校内に掲示したり、学級で鑑賞したりすることで、造形的なよさなどに触れ、自分の見方や感じ方を広げる取組。	
体育	③　④	③児童の実態に合った場を設定することで、自己の能力に適した課題をもって活動できるようにする取組。 ④自己の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫し、考えたことを友達に伝えさせる取組。	
外国語活動	①　④	①学習表現と合わせた歌を設定し、単元を通して表現を繰り返し発話させる取組。 ①毎時間復習の時間をとり、学習表現の定着を図る取組。 ④必要感のある課題を設定し、コミュニケーションをとる必然性を意識付けさせる取組。	
特別の教科　道徳	②　③　④	②自分との関わりや友達の考えにふれる時間を設定することで道徳的価値の自覚を広げる取組。 ③話合い活動の時間を適切に設けることで、多面的に物事を捉えられるようにする取組。 ④道徳ノートを学習の記録として教育活動に活用し、自己の成長を実感できる取組。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気付きを生み出しながら新たな気付きを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲（友達・教師等）と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①　②	②自分の主張だけでなく、相手の考えもよく聞き、意見や立場の違いについて考えながら話をするようにさせる取組。 ①主張に対する理由を根拠付けたり、文章構成を順序立てて整理したりして、分かりやすく表現して文章を書くようにさせる取組。	
社会	②　③	②資料の読み取り方を提示し、丁寧に指導する。読み取りができるようになったら、資料と資料を関連付けることで、思考力を養っていく。 ③社会的事象をいろいろな立場から考える。立場によって見方が変わることを理解し、相関図などにまとめていく。	
算数	①　③	①四則計算の反復学習を行って正確に速く計算できるように練習させるとともに、ＩＣＴを活用して習熟度に合わせた問題に取り組ませる。 ③ペア学習やグループ学習を効果的に行い、どの層の児童も自分なりの考えをもつようにさせる。	
理科	③　④	④単元の初めに、問題につながる「不思議な現象」を提示することで、児童自ら問題意識をもつことができるようにする取組。 ③実験結果を考察する時間を確保し、グループやペアで話し合うことにより科学的な思考力の向上を図る取組。	
音楽	②　③　④	④児童の実態を見極め、一人一人の表現力を高めながら意欲的な取組になるように授業展開を工夫する取組。 ②音楽会などの行事や機会を捉えて、表現することの喜び、合わせあうことの楽しさを味わわせる取組。 ③鑑賞と表現の関連付けを図り、ＩＣＴの効果的な活用をしていく取組。	
図画工作	①　④	④意欲を引き出す指導過程を考えるとともに、多様な表現方法がとれるような題材を設定する。 ①道具や材料の使い方の基本を知るとともに、使い方を練習し、作品作りで活用させる。	
家庭	①　④	①道具や材料の使い方の基本を知るとともに、使い方を練習し、作品作りで活用させる。 ④家族との関わりなどを考えて実践に生かすことで、家庭生活のよさを味わい、家族の一員としてよりよくしようとする態度を育てる。	
体育	③　④	③運動の特性が十分味わえる場作りを工夫し、自己の課題をもって運動させる。 ④グループ活動を通し、仲間との協力・技能の高め合いを図る。	
外国語科	①　③	①１単位時間の授業において、１つの活動に偏らないように５つの活動を組み合わせて取り入れる。 ③「だれに伝えるか」を意識させ、活用する言語を適切に選択させたり、伝わる工夫を考えさせたりする。	
特別の教科　道徳	②　③	②自分との関わりや自分と友達との考え方の違いについて話し合う時間を設定することで道徳的価値の自覚を深める。 ③問題解決的な学習を取り入れ、多面的・多角的に考えられるようにする。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
１　読書タイム	・毎月第３水曜日の業間時間に、落ち着いた学習環境で読書することにより、豊かな心を育む。また、学校応援団による読み聞かせも行う。
２　環境学習	① 植物や生き物を育てる。在来植物の世話をしたり、富士見ネイチャーワールドの魚や虫など身近な生き物を観察・飼育したりして、自然に触れ、生命の大切さを学ぶ。 ② 自然の変化や植物の様子を見て気が付いたことや発見したことをメモし、生活科や理科の授業でまとめ掲示する。
３　家庭学習	① 漢字や計算のドリル学習、音読を取り入れ、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ② 授業以外でも継続的に音読に取り組む。表現・語彙の広がり・文章の理解等につなげる。 ③ 幅広い学習や自ら課題を見つけるために、自主学習に取り組む。
４　あいさつの徹底	・時間を守り、心をこめて挨拶ができるようにする。朝、始業、終業、食事など場面に合わせた挨拶を徹底する。
５　清掃重点習慣	・期間を決め、重点箇所を清掃することにより、正しい清掃の仕方を身に付けさせる。無言で清掃することを意識させ、よりきれいな環境にしようという意欲を高める。
６　学校の生活アンケート	・学校での生活の様子をアンケート結果から把握する。また、生活目標の自己評価をさせることにより、きまりを守ろうとする態度を養う。
７　支援籍学習	・学区内に住む特別支援学校の児童が支援籍学習を本校で行うことにより、インクルーシブ教育を推進する。
８　５・６学年年内教科専科制	・学年内の担当教科を受け持つことで専門性を高め、授業の充実を図る。
９　１～４学年の学年内交換授業	・学級活動、道徳の授業を学年内ローテーション制で行うことで、学年児童全員と関われるようにして理解を深める。

家庭教育との連携	
1　学校応援団	・こども１１０番の家、校外学習の安全確保や各教科における学習ボランティア、ゲストティーチャーを募集し、活用を図る。
2　下校ボランティア	・地域の自治会長を中心に協力者を募り、児童の登下校の安全確保や声かけを行う。
3　学校・学年・学級だより	・本校の教育活動の理念や取組、各学年の取組などを知らせるとともに、今後の予定を広報し、家庭・地域への協力を呼びかける。（家族での会話・子供への声かけ・学習の仕方・学習用具の準備・学習環境の整備・宿題の見届け等のお願い）
4　保健・食育だより	・望ましい健康管理や食育について広報し、家庭への協力を求める。
5　学校医との連携	・学校医や学校歯科医を招いて保健指導を行い、自分の歯や健康について関心を高める。
6　町探検（総合的な学習の時間）	・公共施設や商店を探検し、インタビューをすることにより地域の人に挨拶をしたり、礼儀正しく接したりすることにより地域の一員としての自覚をもつ。
7　中学校区共通指導目標の設定	・中学校区で統一したあいさつと言葉遣いの目標を設定し、９年間継続した指導を行う。
8　学校ホームページ	・随時ホームページを更新し、学校の方針や児童の活動の様子を発信する。
9　配信メールの活用	・配信メールを活用し、保護者へのアンケートや学校の様子などの配信を行うことで、学校の教育活動の様子を積極的に発信する。